

横須賀市自然・人文博物館 リニューアル基本計画



令和7年(2025年)10月
横須賀市教育委員会

目 次

1. 博物館の現状と課題	1
(1)館の沿革	1
(2)博物館の使命・目的	1
(3)基本計画策定の経緯	1
(4)現状と課題	2
(5)関連する上位計画	9
2. リニューアルの方向性	13
(1)コンセプト	13
(2)基本方針	14
(3)ターゲット	15
3. 事業活動計画	16
(1)資料収集・保管	16
(2)調査研究	17
(3)展示	18
(4)教育普及	19
(5)施設	20
(6)その他	20
4. 施設改修計画	21
(1)施設改修の考え方	21
(2)全体構成	22
(3)諸室計画(一覧表)	23
(4)既存建物の課題と施設改修方針	26
5. 展示リニューアル計画	29
(1)展示リニューアルの考え方	29
(2)展示の全体構成(動線計画)	30
(3)展示の構成案	32
6. 今後について	39
(1)整備スケジュール	39

1. 博物館の現状と課題

(1) 館の沿革

昭和29年4月1日	横須賀市博物館開館【横須賀市久里浜】（ペリー記念館を改称）
昭和34年4月1日	横須賀市博物館付属馬堀自然教育園開園【横須賀市馬堀町】
昭和41年4月1日	横須賀市博物館付属天神島臨海自然教育園開園【横須賀市佐島】
昭和45年10月30日	横須賀市自然博物館開館【横須賀市深田台】（自然科学部門移転） （人文科学部門は横須賀市博物館久里浜分館に改称）
昭和51年6月1日	国指定重要有形民俗文化財収蔵庫落成【横須賀市深田台】
昭和58年6月1日	横須賀市人文博物館開館【横須賀市深田台】（人文科学部門移転） （総合博物館として「横須賀市自然・人文博物館」に改称） （横須賀市博物館久里浜分館閉館）
平成11年10月20日	天神島ビジターセンター開館【横須賀市佐島】（神奈川県立臨海青年の家を 県から移譲）
平成14年5月1日	ヴェルニー記念館開館【横須賀市東逸見町】

(2) 博物館の使命・目的

横須賀市自然・人文博物館は、三浦半島を中心とした自然と歴史の博物館です。市民文化の創造と発展に寄与する地域の博物館として、次のような目標のもとに運営しています。

1. 三浦半島の自然の歴史と人の歴史を分かりやすく展示すること。
2. 資料を収集して分類整理し、学術資料として活用するとともに永久に保管すること。
3. 研究機関としての役割を担うこと。
4. 生涯学習の場と機会を市民に提供すること。
5. 学校教育に役立てること。
6. 自然と文化の遺産を保護する立場に立つこと。

(3) 基本計画策定の経緯

当館は、自然博物館と人文博物館の2棟から構成され、それぞれ昭和45年（1970年）と昭和58年（1983年）に開館しました。それ以降大規模な展示改修は行われてきていませんが、これまでに改修に関して2度に渡って検討がなされています。

平成13年（2001年）7月から平成17年（2005年）3月までの間には、市民に親しまれる博物館としての新しいビジョン展開を図ることを目的に、外部有識者や公募市民等により構成された博物館運営懇話会による検討が行われ、平成17年（2005年）3月に「横須賀市自然・人文博物館運営懇話会報告書―博物館のより良い姿を求めて―」が作成されました。その中では、建物の老朽化や、資料室の収蔵スペース不足と空調状態の悪化、看板や案内板の不足による博物館のPR不足、来館者用エレベーターの設置を含めた館内のバリアフリー化などの課題が指摘されました。

その後、平成24年（2012年）1月に、博物館の運営改革について検討するため、庁内組織の博物館運営改革プロジェクトチームが設置され、「博物館運営改革基本方針（案）」が示されました。その中では、常設展示の内容・手法の更新や、幕末以降の歴史など横須賀を特徴づける展示の新設、横須賀市内の観光コースへの組み込み等の方針が示されました。

以上のように、当館の展示改修の必要性については、長年議論されてきましたが、本格的には実現できて

いませんでした。しかし、令和5年（2023年）に博物館法が改正されるなど、時代に即した展示への刷新が求められているほか、ユニバーサルな博物館となることの重要性も増してきており、展示の全面改修とそれに付随する改修の必要性が高まっています。これまでの経緯を受けて、この度、博物館のリニューアル基本計画を策定することとなりました。

（4）現状と課題

ア 現在の常設展示

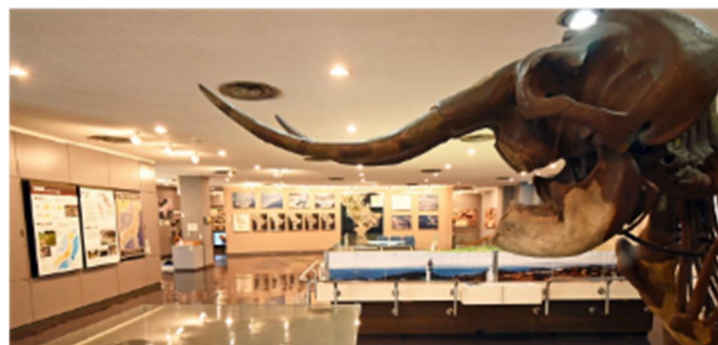
自然館 1階

主に三浦半島の生き物を紹介しています。「植物」、「昆虫」、「海辺の生物」、「魚類」、「鳥類」、「哺乳類」などの展示があります。地質時代の化石を展示した「生命の歴史」、大型の鉱物を展示した「美しい石」もあります。ホタルやホタルイカなどの「発光生物」の展示は、当館の展示の特色です。



自然館 2階

横須賀市で初めて発見された「ナウマンゾウ」を中心としたフロアです。三浦半島周辺の「地形模型」、「衛星写真」、「三浦半島の活断層」、化石や岩石から三浦半島の生い立ちを探る「深海から生まれた三浦半島」、ジオラマ「三浦半島の自然・森林」と「三浦半島の自然・海岸」などの展示もあります。「珍しい標本コーナー」ではリュウグウノツカイなどの大型標本を展示しています。



人文館 1階

旧石器・縄文・弥生・古墳時代、古代を経て中世の三浦一族が栄えたころまでの歴史を紹介しています。主に三浦半島から出土した土器や骨角器・埴輪などを展示しています。

三浦半島の海辺での生活を再現したジオラマや古墳時代の住居の模型などからは昔の人々のくらしぶりを想像することができます。



人文館 2階

江戸時代から現代までの三浦半島の歴史と民俗を展示しています。昔の船や漁師の家など大きな展示物が見どころです。江戸時代以降、浦賀には重要な湊が置かれ、幕末にはペリーが来航、その後、横須賀製鉄所が開設されました。これらの日本史上でも有名な歴史に加えて、横須賀の都市化と暮らしの変化を物語る資料を展示しています。



イ 付属施設

馬堀自然教育園

東京湾に近接した面積約3.8haの緑地で、1周約20分で歩ける観察路とさまざまな生物がすむ水辺が整備されています。園内では自然の保全や、三浦半島で希少となった動植物の保護を行っています。平成28年（2016年）には三浦半島の自然に触れられる場所として横須賀市の天然記念物に指定されました。



天神島臨海自然教育園

相模湾に面した三浦半島の西海岸にあり、三浦半島の代表的な海岸の自然環境を保護しています。江の島、丹沢山地をはじめ、箱根や富士山、伊豆半島の山並み、伊豆大島などを一望できる景勝地で、ハマオモト（ハマユウ）群落の一部が昭和28年（1953年）に自然分布の北限地として神奈川県天然記念物に指定され、昭和40年（1965年）には天神島・笠島及び周辺海域（54万㎡）が神奈川県の天然記念物及び名勝に指定されました。



ヴェルニー記念館

横須賀製鉄所（造船所）を建設し、日本近代工業化の基礎をつくりあげたフランス人、フランソワ・レオンス・ヴェルニーの功績と、横須賀製鉄所の意義を伝えるための施設です。



ウ 学芸員の認識

当館で解決すべき現状の課題と、課題に対して考えられる対応案や今後取り組むべき方向性について、学芸員の認識を以下のとおり整理しました。

<資料収集・保管について>

資料室の面積・容積が不足していることが大きな課題となっています。学芸員室や事務室、使用頻度の低い部屋等の面積を削減して資料室の面積を増やし、効率的な収蔵方法を採用することで収蔵スペースを確保する必要があります。また、これまで明文化された資料の収集方針はありませんでした。近現代の資料や、近年の著しい環境変化を裏付けるような資料など、今後収集が必要なるさまざまな資料があります。資料のデジタル・アーカイブ（※1）化については進行途中であり、引き続き作業を行っていく必要があります。デジタル化に当たっては対象資料の優先順位と利用に関するルールを明確にした上で進めていく必要があります。

<調査研究について>

各学芸員が自分の専門を活かした研究を引き続き進めることが重要です。一方、近現代分野の研究が進んでいないという課題があります。また、研究成果を十分に市民に伝えられていないという課題も挙げられます。

当館は、自然博物館と人文博物館により構成されていることが特徴です。しかし、各分野の研究成果について館内での情報共有が不足していると考えられます。各分野の研究内容をコラボレーションすることで、新しい視点で人と自然の関わりを明らかにすることが求められていると考えています。

<展示について>

昭和45年(1970年)と昭和58年(1983年)の人文博物館の開館以降、展示のリニューアルが行われていないことが課題となっています。そのため、①資料の陳列を主体とした古い展示手法が用いられている、②順路が定められていない、③展示の更新が困難、④体験型展示や映像展示が不足、⑤特別展示室の面積や設備が不十分、などの問題があり、来館者に分かりやすく展示の意図を伝えることが困難となっています。また、市民のニーズを反映させた展示も不十分といえます。展示ガイドの要望があることを把握していますが、ガイドの育成・運用についての課題も認識していることから、ガイドがいなくても分かりやすい展示を目指したいと考えています。

<教育普及について>

当館では博物館教室や自然観察会など、さまざまな主催イベントを行っています。また、学校による団体見学での解説や、学校へ出向いた出前授業も実施しています。今後もそれらの教育普及活動を継続しながら、より多くの参加者や児童生徒に提供できる効果的な教育普及プログラムを検討していく必要があると考えています。

<施設>

来館者用のエレベーターがないことが課題と考えています。また、博物館の入口が2つあり、初めて来た来館者が混乱している場合が見受けられます。駅から博物館までのアクセスが分かりづらいことや博物館であることが分かりづらい外観といった課題を認識しており、改善が必要だと考えています。

<その他>

横須賀市では、横須賀に点在する歴史や文化、自然などのスポットを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」として捉える、「よこすかルートミュージアム」構想を推進しています。今後は、「よこすかルートミュージアム」の核としての役割を果たせるよう、検討していく必要があります。また、博物館の附属施設もサテライトとして機能させていく必要があります。また、市内の他の関連機関・施設と連携した博物館活動を展開していく必要があると考えています。

エ 庁内から意見

横須賀市役所内のコミュニケーションや共同作業を円滑にするためのソフトウェアシステム(ガルーン)の庁内掲示板にて「博物館リニューアルに対する意見の募集について(アンケート依頼)」を掲載し、市役所内の各課から意見を収集しました。調査期間は令和6年(2024年)4月21日~5月15日です。リニューアルで取り上げてほしい展示テーマやストーリー、リニューアルへの希望や課題を自由記述で記入していただき、40課から回答をいただきました。

<資料収集・保管について>

保管している資料が十分に活用されていないという意見があります。資料を活用した事業のPRを今後より積極的に行っていく必要があります。

<調査研究について>

学芸員の調査研究成果の発信が弱いとの指摘があります。今後は、調査研究の進捗状況について、広報・行事・展示等で継続的に発信していく必要があります。

<展示について>

子供向けの体験型展示や、誘客につながる目玉展示がなく、ワクワクしない旧態的な展示になっているという課題があります。また、展示の更新頻度が少ないという意見があり、さまざまな資料を公開し、最新の調査研究の状況を伝えるような展示が求められています。

<教育普及について>

学校の遠足や課外学習など、さまざまな団体利用を想定した事業の強化が求められています。

<その他>

現在は市内の観光ルートにのっていないという課題が指摘されており、博物館が横須賀観光や地域の周遊につながる拠点として機能してほしいとの意見が多数ありました。また、付属施設や、ペリー記念館などの関連施設との連携が不十分との指摘もあり、連携のあり方についても見直していく必要があります。

オ 来館者からの意見

令和6年(2024年)12月～令和7年(2025年)1月にかけて、特別展示や館主催イベント等を目的に来館された方を対象として、リニューアルに関するアンケートを実施しました。特別展示については、展示室内にアンケートブースを設置して任意の方に記載していただき、その他のイベントについては配布資料にアンケート用紙を添付して回答していただきました。実施の詳細は以下のとおりです。

質問:「博物館は令和12年にリニューアルオープンを目指しています。どんな博物館がよいか、どんな展示が見たいか、自由に書いてください。」

方法:自由記述方式

アンケート実施期間	特別展示・イベント	回答数
令和6年12月3日～ 令和7年1月31日	特別展示「市街地が語る横須賀」	76
令和6年12月21日	特別展示講演会	11
令和6年12月21日～ 令和7年1月26日	博物館クイズ「すかぞうの挑戦状」	248
令和6年1月25日～26日	研究発表会「みんなの理科フェスティバル」(大人)	56
令和6年1月25日～26日	研究発表会「みんなの理科フェスティバル」(子供)	72
合 計		463

四国博物館 (Shikoku Museum) word cloud featuring terms such as: 歴史 (History), 自然 (Nature), 子ども (Children), 展示 (Exhibitions), 体験 (Experience), 動物 (Animals), 恐竜 (Dinosaurs), 化石 (Fossils), 横須賀 (Yokohama), 模型 (Models), 昔 (Old), 今回 (This time), 子供 (Children), 展示 (Exhibitions), 自然 (Nature), 体験 (Experience), 動物 (Animals), 恐竜 (Dinosaurs), 化石 (Fossils), 横須賀 (Yokohama), 模型 (Models), 昔 (Old), 今回 (This time), 子供 (Children).

＜資料収集・保管について＞

<調査研究について>

<展示について>

<教育普及について>

<設備・サービス面>

– 7 –

もあります。また、親子で楽しめる遊び場を求める声も目立ちました。その他、博物館の外観が目立たないため認識しづらいこと、入口がどこかが分かりづらいことなど、そもそも博物館に最初にアプローチする段階で課題が多いことが分かります。また、夜間開館や特別イベントを求める意見があり、より柔軟な運営体制への期待が高まっています。その他、地域との連携も今後の課題として挙げられています。

<その他>

駅から博物館までの動線が分かりづらいことが課題として挙げられています。

カ 改善すべきポイントの整理

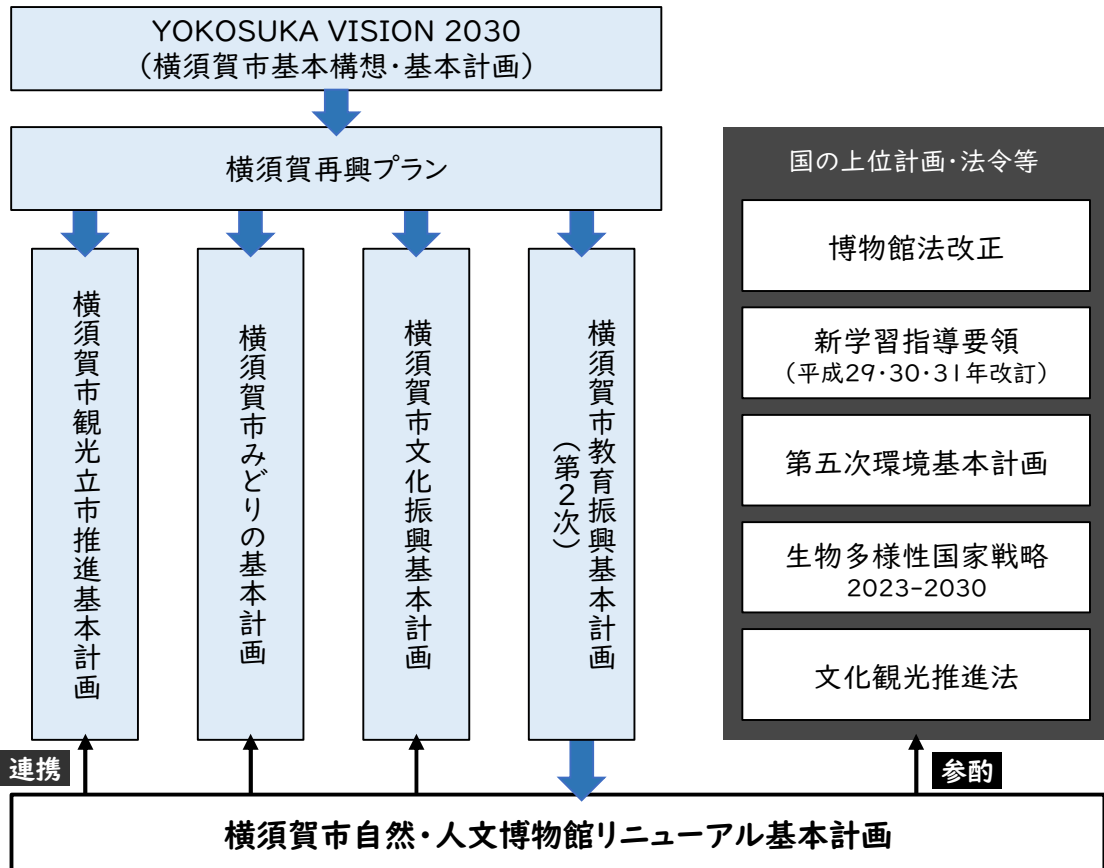
博物館の現状と課題のポイントは、以下のように整理できます。

事業内容	現状と課題のポイント
資料収集・保管	①保管している資料の活用強化 ②資料室の容積の不足 ③資料のデジタル・アーカイブ化の推進
調査研究	①地域の自然や歴史を伝える場としての役割強化 ②学芸員の調査研究成果の発信強化 ③近現代分野の研究不足
展示	①資料の陳列を主体とした古い展示手法 ②順路が分かりづらい ③展示の更新が困難 ④体験型展示や映像展示の不足 ⑤特別展示室の面積や設備が不十分 ⑥誘客につながる目玉展示不足 ⑦展示ガイドの要望
教育普及	①さまざまな団体への対応の効率化が必要 ②参加型の体験イベントやワークショップの充実の要望
施設	①来館者用のエレベーターがない ②バリアフリー設備の充実やトイレ設備の改善 ③博物館の入口が分かりづらい ④博物館の外観が目立たない
その他	①駅から博物館までの動線が分かりづらい ②地域連携や文化観光(※3)の強化

(5) 関連する上位計画

■他の計画等との関連図

横須賀市の上位計画・関連計画



ア 国の上位計画

(ア) 博物館法改正 (博物館法の一部を改正する法律) (令和5年4月1日施行)

博物館法改正では、現代の課題に対応するため、博物館に新たな役割が求められるようになりました。まず、博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開が追加され、デジタル技術を活用して資料を広く共有する取り組みが必要とされています。これにより、地域文化資源の活用が一層促進されることが期待されています。また、地域の多様な主体との連携・協力を図り、文化観光や地域活性化に取り組むことが努力義務とされました。博物館は、自治体や教育機関、産業界などと連携し、共創の場をつくりながら地域発展に貢献することが求められます。さらに、多様な地域的・社会的課題への対応を通じて、地域の活力向上に寄与することも重要な役割となっています。人口減少や過疎化、環境問題など、地域が抱える課題に向き合い、持続可能な地域づくりを支援することが期待されています。これらにより、博物館は地域社会の中核的な存在として、文化と人、地域をつなぐ重要な役割を果たすことが求められています。

(イ) 新学習指導要領(平成29・30・31年改訂)

平成29・30・31年に改訂された新学習指導要領では、これまでの「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」を重視する方針が示されました。子供たちが学ぶ意義を理解し、積極的に学びに取り組むことが求められています。「生きる力」を育むことを目標に、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等の3つの柱で再整理しています。この柱に基づき、授業では単に知識を習得させるだけでなく、子供たちが対話や探究的な活動を通して思考を深め、課題解決力や表現力を高める取り組みが重視されています。博物館には、学校教育との連携をさらに強化し、探究的な学びの場を提供することが求められています。

(ウ) 第五次環境基本計画(平成30年)

第五次環境基本計画では、地域資源を活用した持続可能な地域づくりが重点戦略の1つとして掲げられています。エコツーリズム(※4)やグリーンツーリズム(※5)など、地域の自然資源を保全しながら持続的に活用することで地域の活性化を目指すことが推進されています。また、地域に根ざした多様な文化資源を継承・活用するため、田園や古民家、伝統的な祭りや工芸品などとツーリズムを連動させる方針も示されています。さらに、健康で心豊かな暮らしの実現として、森・里・川・海とつながるライフスタイルへの転換が求められ、子供たちに「五感で感じる」自然体験の場を提供する取り組みが推進されています。博物館でも、エコツーリズムやグリーンツーリズム、自然体験等につながる取り組みを展開していくことが求められています。

(エ) 生物多様性国家戦略2023-2030(令和5年3月)

生物多様性国家戦略2023-2030では、自然を活用した社会課題の解決が基本戦略の1つとして示されています。自然体験を通じて心身の健康増進を図りながら、生物多様性の保全につなげる取り組みが推進されています。また、地域に根ざした伝統文化や自然観を次世代に継承し、自然との共生の価値を広く共有することが重要視されています。特に、森・里・川・海のつながりを踏まえた地域資源の活用や、地域の自然が産業や文化を支えていることへの理解を深めることが求められています。博物館でも、伝統文化や自然との共生についての理解を深める取り組みに貢献していくことが期待されています。

(オ) 文化観光推進法(令和2年5月)

文化観光推進法は、文化資源の保存と活用を両立させながら、観光の振興と地域の活性化を図ることを目的としています。この法律では、博物館や美術館、社寺、城郭などの文化資源保存活用施設を「文化観光拠点施設」と位置付け、文化庁は、自治体や関係機関と連携し、これらの施設が地域の観光事業者と協力して文化資源の魅力を発信するための事業や計画策定を支援しています。博物館では、この考え方を受けて、地域と連携しながら、文化資源の保存と活用を両立させ、文化観光の推進に積極的に取り組むことが期待されています。

イ 本市の上位計画・関連計画

(ア)「YOKOSUKA VISION 2030」(横須賀市基本構想・基本計画)(令和4年3月)

本市では、「YOKOSUKA VISION 2030」に基づき、横須賀の地域資源を生かしたまちづくりを推進しています。その中で、横須賀全体を観光フィールドと捉え、自然環境や歴史・文化を磨き上げ、東海岸・西海岸それぞれの特色を生かした取り組みを進めています。さらに、市内の文化施設や観光資源を巡る「よこすかルートミュージアム」構想を推進し、回遊性の向上を図っています。また、海洋教育や自然体験を通じて、海を守る意識の醸成の推進や、持続可能な社会の実現を目指し、一人一人が環境を「自分ごと」として考える意識の醸成を図っています。博物館は「よこすかルートミュージアム」の核として位置付けられていることから、本構想に貢献していくことが必要です。また、持続可能な社会や環境を考えさせる場となることも求められています。

(イ)「横須賀再興プラン2022-2025」(令和4年3月)

本市では「YOKOSUKA VISION 2030」に基づいて実施する主要な事業を示した実施計画として「横須賀再興プラン2022-2025」を策定し、歴史・文化や自然資源を最大限に活用し、地域の魅力を高めながら活力あるまちづくりを推進しています。本計画では、「歴史・文化の魅力向上」「自然資源を生かした地域振興」「エンターテインメントを通じた賑わいの創出」を目指し、具体的な施策を展開しています。例えば、浦賀レンガドックを中心とした浦賀地区では、世界最大級のレンガ造りドライドックの価値を広く発信し、千代ヶ崎砲台跡と連携するなど、観光拠点化と地域活性化を目指しています。また、西海岸エリアでは、風光明媚な海岸線や豊かな自然環境を生かし、ソレイユの丘のリニューアルや農漁業振興に取り組んでいます。さらに、本計画では市内各所の歴史・文化スポットをルートで結ぶ「よこすかルートミュージアム」構想を推進し、観光の回遊性向上を図っています。これにより、横須賀の多様な魅力を一体的に発信し、更なる賑わいの創出を目指します。博物館でも、「よこすかルートミュージアム」の推進による賑わいの創出に寄与し、歴史・文化や自然資源の活用や、地域の魅力・活力あるまちづくりに貢献していくことが求められています。

(ウ)「横須賀市教育振興基本計画(第2次)」(令和4年2月)

本市では、横須賀への愛着と誇りを育て、地域の歴史や文化など、地域の良さを自信を持って発信できる人材の育成を目指しています。本計画の施策の一環として、「文化遺産・自然遺産の活用と将来への継承」を推進しています。本市には多種多様な文化遺産・自然遺産が存在し、それらを次世代へ適切に引き継ぐことが求められています。具体的な取り組みとしては、近代化遺産や東京湾要塞跡の保存・活用に加え、浦賀レンガドックの文化財指定を目指した調査・研究を進めています。また、天然記念物の保護や、馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園の活用にも力を入れています。さらに、市民団体や学校との連携により、郷土の歴史や伝統文化を学ぶ機会を創出し、民俗芸能の保護と後継者育成にも取り組んでいます。これまで、博物館ではこのような取り組みに寄与する事業を行ってきましたが、今後は付属施設や関連機関、市民団体や学校、生涯学習課などの他部署等との連携をより一層進めていく必要があります。

(エ)「横須賀市文化振興基本計画」(令和5年3月)

本市では、「横須賀市文化振興基本計画」に基づき、郷土の歴史や文化的遺産の掘り起こしと普及、保全・伝承に取り組んでいます。その取り組みのもと、当館では、横須賀の自然や文化遺産に関する資料の収集・管理・保管・活用を進めており、市民がそれらを身近に感じ、学べる環境を整備しています。調査研究機能を備え、地域の歴史や自然環境の理解を深める学びの場として、学校教育や地域活動と連携したプログラムを展開しています。また、本市では、これらの貴重な資源を次世代へ継承するため、日本遺産や関連する史跡(猿島・千代ヶ崎砲台跡など)の普及活動にも注力しています。さらに、浦賀レンガドックの歴史的価値を生かし、文化財指定に向けた調査・研究を実施するとともに、市民にその魅力を発信する取り組みを進めています。本計画では、ルートミュージアムを通

じたサテライト施設の周遊促進や、小中学校への出前授業も実施し、子供たちが横須賀の豊かな自然、歴史、文化に親しむ機会の提供を推進しています。博物館でも、引き続き地域の歴史や自然環境の理解を深める活動を行っていくとともに、日本遺産や関連する史跡との連携も視野に入れていく必要があります。

(オ)「横須賀市みどりの基本計画」(中間見直し)(令和4年3月)

本市では、平成28年(2016年)から、「横須賀市みどりの基本計画」に基づいて、生物多様性の確保に向けた取り組みや、身近な自然に親しむための、みどりの保全・活用等を推進しています。令和4年(2022年)に行われた中間見直しでは、推進施策として、「横須賀エコツアーの推進」や、「自然に関する環境教育・環境学習の実施」等が示されています。博物館でも、横須賀の身近な自然に親しめる機会の創出や、横須賀の豊かな自然環境を次世代につなぐことに貢献していく必要があります。

(カ)「横須賀観光立市推進基本計画」(平成28年9月)

本市では、「横須賀市観光立市推進条例」を受け、観光を市の重要な柱と位置付け、「観光魅力」の創出を目的に地域資源の強化と新たな魅力の発掘を推進しています。広く認知されている「ペリー上陸と開国の歴史」「軍港都市」「海」「アメリカの雰囲気」「よこすか海軍カレー」「猿島」「三笠公園」「YOKOSUKA軍港めぐり」などは、引き続き魅力を充実させます。また、首都圏で貴重な自然環境も積極的に活用し、観光資源の価値を高めていきます。一方で、地域資源を再評価し、地域ならではのストーリー性を付加することで、新たな視点から資源を磨き上げる取り組みを進めています。これにより、観光客が地域の魅力を深く体感できる仕掛けを構築し、観光の更なる可能性を広げていきます。博物館では、上記の観光資源の価値を評価し、その魅力や学術的価値発信することで、横須賀市の重要な柱となっている観光事業に貢献していくことが求められます。

2. リニューアルの方向性

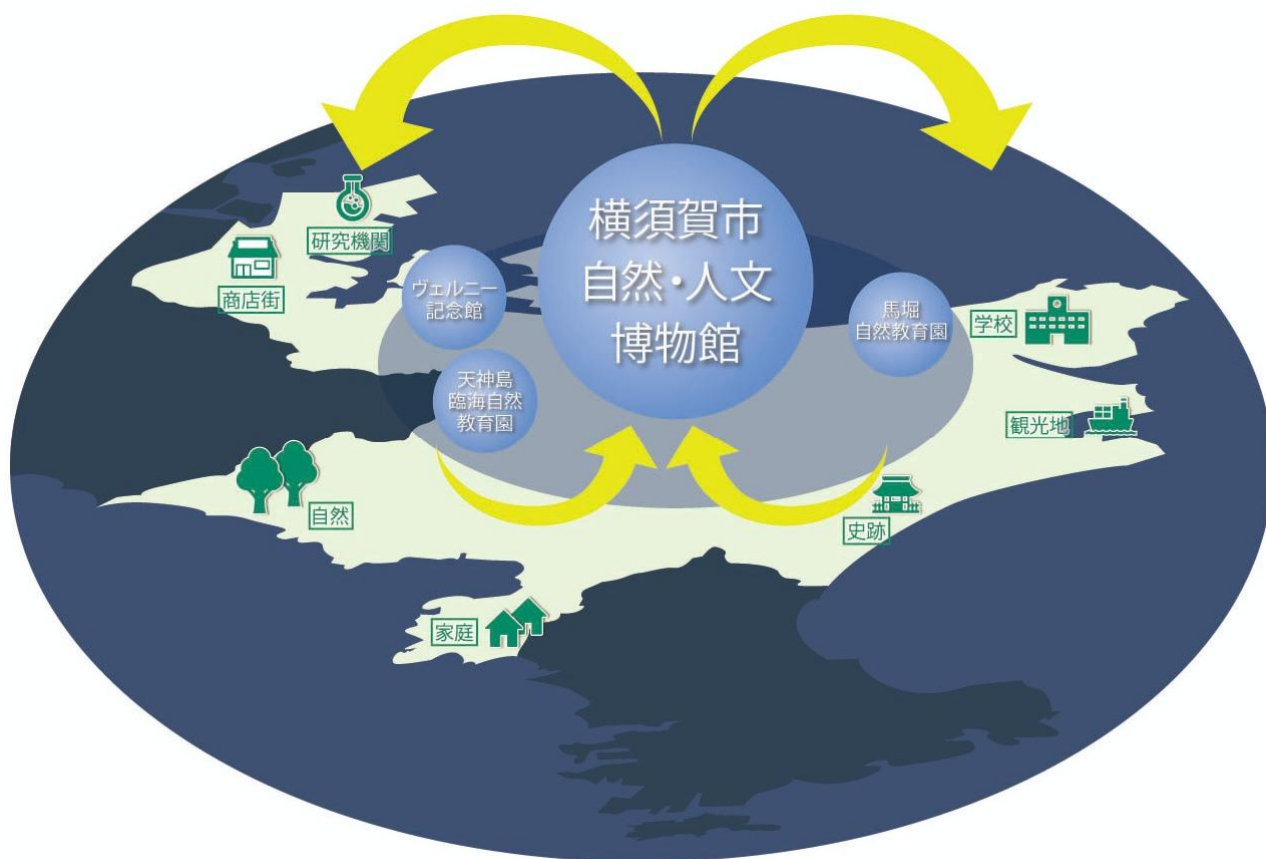
(1) コンセプト

「地域学習と文化観光の核となるミュージアムへ！」

リニューアルでは、「地域学習と文化観光の核となるミュージアムへ！」をコンセプトに、地域の歴史・文化・自然を守り伝える役割を大切にしながら、誰もが魅力を感じる博物館づくりを目指します。

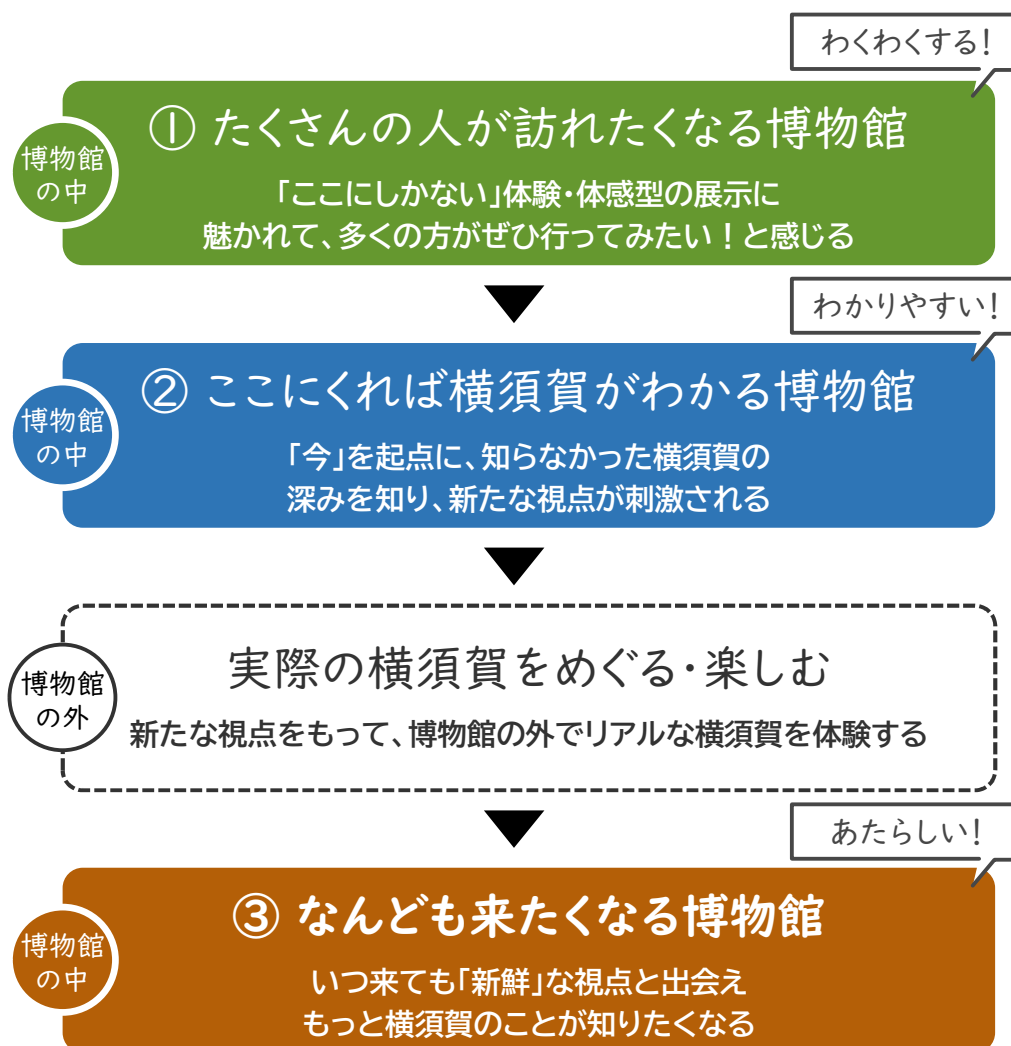
学校や研究機関などと連携した学びの拠点となり、観光地や商店街など地域と協力し、横須賀ならではの歴史や伝統、芸術といった文化観光の魅力や情報を提供する場として、文化と人、地域をつなぐ中心的な存在を目指します。

従来の「勉強や学びのための場所」「少し敷居が高い場所」というイメージを超え、観光やレジャー、遊びをきっかけに多くの人が気軽に訪れたいくなる、開かれたミュージアムを実現していきます。



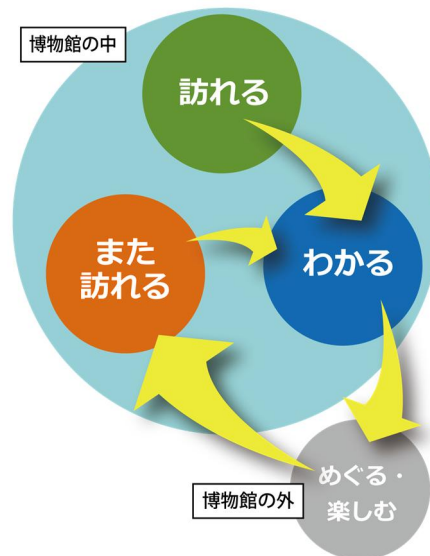
(2) 基本方針

地域学習と文化観光の好循環を促し、新たな観光客層への獲得につながるリニューアルを行います。「行ってみたい」という興味関心を喚起し、「知らなかった」という学びの感動を与え、日々の生活や横須賀観光の中で「また行きたい」と思ってもらえるように、3つの方針を定めます。

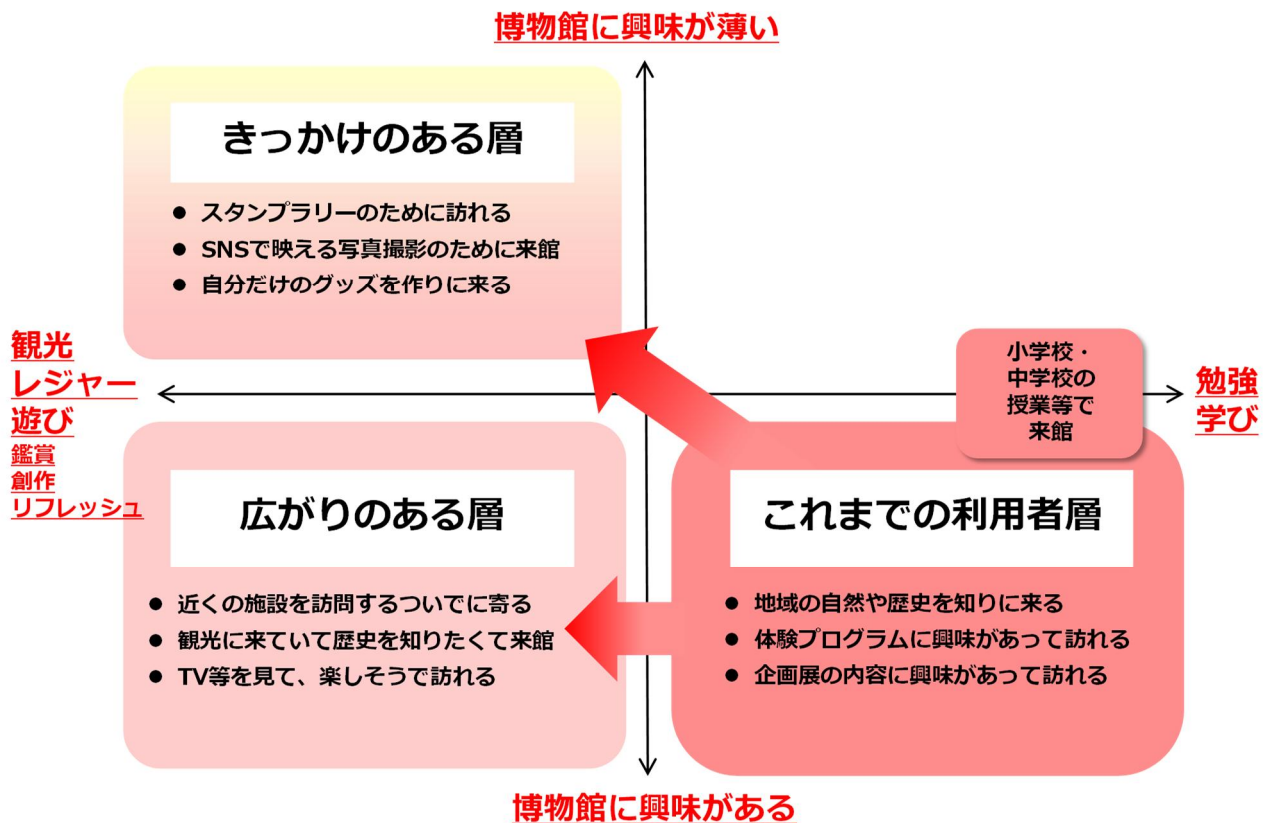


(3) ターゲット

「たくさんの人が訪れたい博物館」となることにより、これまでの利用者層とともに新たな来館者層を惹きつけます。次に、「ここに来れば横須賀が分かる博物館」となることにより、既存・新規来館者層のいずれにも新しい驚きや感動を提供します。そして、「なんども来たい博物館」となることにより、来館者にリピーターとなって再び訪れていただき、全体で来館促進の好循環の創出を狙います。



■これまでの利用者層から新規来館者層にアプローチしていくイメージ



3. 事業活動計画

リニューアル及びそれ以降の事業活動計画の方針を、以下のように整理しました。

(1) 資料収集・保管

方針1. 収集する資料の方向性の明確化
・ 学術的に貴重な資料や、歴史的、科学的価値のある資料を収集・保存する。 ・ 展示や教育普及活動等での活用も視野に入れた収集を行う。
(活動案) ・ 収集すべき対象を明確にする。資料を受け入れる場合は、その必要性を精査する。 ・ 三浦半島や関連地域の資料を優先的に収集する。 ・ 自然部門では、三浦半島産の資料の分類登録を進めるとともに、近年の環境変化を裏付ける資料の収集を強化していく。 ・ 人文部門では、近現代を対象とした歴史・民俗資料の収集を強化していく。 ・ 三浦半島に関する(歴史の)記録は、海防や異国船来航の関係など、全国各地に所在しているため、実物での収集が難しい資料はデジタルの情報で収集する。 ・ 展示に適する大型資料の収集や購入を検討する。 ・ 学校に対する教育普及を考慮して、学校の要望も把握して収集を行う。
方針2. 資料室の容積不足の解消
・ 効率的な収蔵スペースの確保に努める。 ・ 多くの貴重な資料を収蔵するための適切な保存環境を構築する。
(活動案) ・ 使用頻度の低い諸室や、学芸員室、事務室等を削減して、資料室を増床することを検討する。 ・ 資料棚を集密書架式にするなど、資料の保管スペースを有効活用する。
方針3. デジタル・アーカイブ化の推進
・ 資料台帳と資料のデジタル化作業を引き続き進めていく。 ・ デジタル化する資料に優先順位をつけて、計画的にデジタル・アーカイブ化を行っていく。 ・ 保存の観点から実物の閲覧が難しい資料については、デジタルでの閲覧を容易にする。
(活動案) ・ 優先順位やルールを明確にして効率的にデジタル化作業を進める。 ・ クラウド型資料データベースシステムを活用した資料のデジタル・アーカイブ化を検討する。 ・ 国などの統合データベース(例:JAPAN SEARCH ※6)と連動させることを検討する。

(2) 調査研究

方針1. リニューアルに向けた研究の強化

- ・ 三浦半島と、それに関連する周辺地域を対象とした調査研究活動を、今後も継続していく。
- ・ 館内で研究成果の共有を図り、新しい知見を蓄積する。
- ・ 他の研究機関や団体と連携し、博物館だけでは達成が難しい研究内容を遂行する。

(活動案)

- ・ 三浦半島に加え、周辺の自然と歴史について調査研究活動を行う。
- ・ 博物館資料に対して最新技術を活用した研究を推進する。
- ・ 自然部門については、環境変化に対応した内容の調査研究にも力を入れていく。
- ・ 人文部門については、近現代を中心に、これまでカバーし切れていなかった内容の調査研究をしていく。
- ・ 各分野の専門的な知見を深めるとともに、総合知に貢献するような研究活動や連携も推進する。
- ・ 三浦半島に所在もしくは同地をフィールドとして研究を行っている研究機関や団体等と連携して調査研究を行う。

方針2. 調査研究成果の発信強化

- ・ 市民が、学芸員の活動について理解できるようにする。
- ・ 市民が、三浦半島の自然や歴史の最新情報について把握できるようにする。

(活動案)

- ・ 研究成果を展示や教育普及活動をととして継続的に発信する。
- ・ 特別展示や講座、ホームページ、SNS(※7)等での発信を強化していく。

(3) 展示

方針1. 魅力ある展示作り

- ・ 博物館が横須賀・三浦半島の自然・歴史の学習の拠点となるようにする。
- ・ ここでしかできない体験に惹かれて多くの方にぜひ行ってみたいと感じていただけるようにする。
- ・ アクティブラーニング(※8)を促す展示を積極的に取り入れる。
- ・ 来館者が楽しみながら学習を深めることができるようにする。

(活動案)

- ・ 横須賀や三浦半島に関する豊富な情報を備えた展示を行う。
- ・ 館全体の動線と展示ストーリーを明確にする。
- ・ 目玉展示を設定する。
- ・ 対話型、参加型、体験型の展示を導入する。
- ・ 「触れる展示」「体験できる展示」を豊富に取りそろえる。
- ・ 「学び方、観察の仕方」を伝える展示を行う。なぜ?どうして?という疑問をもって自分で考え回答を導けるような仕組みを取り入れ、展示をより深く理解できるようにする。
- ・ 映像やプロジェクションマッピング等の最新技術を活用した魅力的な展示を行う。
- ・ 来館者が各自の端末で閲覧できる「展示ガイドアプリ」を整備して、多言語化に対応する。

方針2. 展示の更新頻度の向上と最新の研究成果の反映

- ・ 来館者が知識を増やし、自ら学習を深められるようにする。
- ・ 魅力的な特別展示を開催する。
- ・ 来館者がいつ来ても新しい発見と学習ができるようにする。

(活動案)

- ・ 更新しやすい展示空間を整備する。定期的に展示を更新することにより、何度来ても新しい発見があるようにする。
- ・ 常設展示でカバーできない三浦半島に関する内容や、最新の研究成果、話題のテーマなどを紹介する。
- ・ 他館と連携した展示や、必要に応じて巡回展の開催、資料の借用を行う。

(4) 教育普及

方針1. 参加型の体験イベントやワークショップの充実・効率化

- ・ 子供向けの体験型プログラムを拡充させていく。
- ・ 大人向けの講座や講演会、学習プログラムを拡充させてく。

(活動案)

- ・ 主催行事、レファレンス(※9) 対応、学校・団体見学対応などを引き続き展開する。
- ・ 製作体験や探究学習に関するプログラムを充実させる。
- ・ 外部講師を招いた講演会やイベントの開催も検討する。

方針2. 博学連携の強化

- ・ 教員が主体的に博物館を活用した授業を展開できるような仕組みを作る。
- ・ より多くの児童生徒が博物館を訪れ、学習できるようにする。

(活動案)

- ・ 多くの参加者や児童生徒に教育普及活動を提供できるように効率的な方法を検討する。
- ・ 授業で活用しやすい貸出キットを開発する。
- ・ 博物館で授業内容に沿った学習ができる展示見学ルートを設定する。その見学ルートの内容について教員研修を行う。

方針3. 関連機関との連携による教育活動の拡大

- ・ 諸施設と連携した教育普及活動を継続し、多様な教育普及活動を展開する。

(活動案)

- ・ 関連他館や近隣の研究機関、生涯学習課等との連携により、教育普及活動の幅を広げていく。

方針4. デジタル・アーカイブ公開

- ・ デジタル・アーカイブの公開の方法について検討し、優先順位をつけてデータを公開する。
- ・ デジタル・アーカイブの公開により、市民が自ら学習を深められるようにする。
- ・ デジタル・アーカイブの公開により、専門家や研究者等が学術研究を深められるようにする。

(活動案)

- ・ 公開範囲や公開する項目、個人情報保護、原本閲覧への対応など、データベースの公開方針を明確にする。
- ・ クラウド型資料データベースシステムを活用したデータベース公開について検討する。
- ・ 資料や研究成果をオープンデータ化(※10) して、現地や学校自宅で参照可能にする。

(5) 施設

方針1. 館内のバリアフリー化と設備改善の強化

- ・バリアフリー化により、さまざまな人が安心して博物館を利用できるようにする。
- ・建物の外観を親しみやすいものにする。多くの方が「入ってみたい」と思える博物館にする。

(活動案)

- ・来館者用のエレベーターの設置、トイレ設備の改善、授乳室の整備などを行う。
- ・2つある入口を1つに統一する。
- ・入口付近の建物デザインを見直し、改修する。

方針2. 休憩スペースの増設

- ・館内を快適に利用できるよう、途中で休憩できるスペースや椅子を増設する。

(活動案)

- ・館内で休憩できるスペースを確保する。

方針3. 3階ラウンジの有効活用

- ・東京湾や京急電鉄の線路が見える3階ラウンジの有効活用を検討する。

(活動案)

- ・休憩スペースとしての活用や実際に見える風景を地図で見えるコーナーなどの活用の検討。

(6) その他

方針1. 地域連携や文化観光の強化

- ・市内の文化施設や公園等とすみ分けを図りながら、連携を強化する。
- ・地域の活力向上や文化観光に貢献できるようにする。

(活動案)

- ・市内の文化施設との連携を引き続き行い、相互に誘客を促進したり、合同のイベントを実施したりすることにより、地域を盛り上げる。
- ・外部からの要請に合わせて、多様な主体との連携関係を構築していく。

方針2. 「よこすかルートミュージアム」の役割強化

- ・横須賀の歴史や文化、自然環境の見どころを紹介する。
- ・博物館が横須賀・三浦半島の自然と歴史の学習の拠点となるようにする。

(活動案)

- ・ルートミュージアムの各スポットを展示で紹介し、そこへ行ってみたいという動機付けを与える。
- ・ルートミュージアムで設定しているテーマやエリアに関連する内容を集めた特別展示や、関連する教育普及プログラムを実施する。